

褥瘡を持つ入居者の意識改善に向けたアプローチ  
～改善策の提案受け入れの促進～

愛知労災特別介護施設

○松岡ひとみ 吉田真 長束陽子

【はじめに】当施設では褥瘡の処置や予防対応は日々行っているが、回復と悪化を繰り返し、慢性経過をたどる入居者も少なくない。慢性化の原因として入居者自身の褥瘡治癒への意識が低く、処置や対応に消極的であったり、自身のこだわりや習慣があり改善策を受け入れないといった要因が考えられる。このような入居者の褥瘡の回復には医療処置や生活面のケアだけではなく、本人が褥瘡を治すという意識を持つことが大切である。入居者の褥瘡治癒への意識の改善を図り、改善策の受け入れを促進させる為に、フィードバックという手法を活用し、褥瘡状態の変化に伴う入居者の意識の変化と改善策の受け入れ状況についてまとめた結果を報告する。

【方法】褥瘡に対する意識、生活状態等を調査・把握し、改善策の提案をする。褥瘡状態を本人に伝え、写真で確認してもらう。毎月、褥瘡への意識をアンケート調査し、再度改善策を提案する。褥瘡状態の推移と褥瘡に対する意識の変化、改善策の受け入れ状況を評価する。

【結果・考察】褥瘡状態に大きな変化はないが、褥瘡に対しての意識は高まり、改善策の提案も概ね受け入れた。意識アンケートと改善策の受け入れ状況を照らし合わせると、褥瘡の状態を確認してから意識の変化が見られた。写真を見せる事で自身の褥瘡状態を理解し、ある種の危機感を感じた為、意識の変化に繋がったと考える。また、第三者の視点で良くなった事、改善策ができていた事を繰り返し伝えた事で安心と自信に繋がり改善策の受け入れが進んだと思われる。改善策の提案は入居者が選択・決定する事で主体は入居者にあると認識してもらい、押しつけや無理強いをしない事で成果に繋がったと考える。